

別表第1（第5条関係）

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	田沢湖駅前広場維持管理事業				
担 当 課 係 名	都市整備 課	都市整備 係	作成者	築田 正	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち			総合計画の ページ
	基本計画	公共交通の利便性の充実			
	主要施策	田沢湖駅の利便性の充実			33
予 算 費 目	一般 会計	8 款 土木費	4 項 都市計画費	2 目	街路事業費
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規／継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	田沢湖駅前広場管理運営に関する細目協定				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	地域を訪れる観光客、通勤、通学、送迎者。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	田沢湖の玄関口にふさわしい、駅利用者に安らぎを与えられるよう広場を維持管理する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	施設の維持管理を実施する。水景施設の保守点検と修景木の冬囲い等は民間業者へ委託している。冬季間の歩道消雪。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	駅広面積	目標	m ²	7,468	7,468	7,468	
			実績	m ²	7,468	7,468	7,468	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	駅利用者	目標	人	356,317	349,322	315,725	
			実績	人	356,317	349,322	315,725	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				559	2,290	2,832	
	人 件 費 (B)		—		79	323	555	
	職 員 数		—		0.01	0.04	0.07	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				638	2,613	3,387	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				638	2,613	3,387
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		85	350	454	
	市民1人当たりのコスト(円)		—		20	83	109	

【事務事業の今までの成果】

水景施設の稼働や修景木の冬囲い等の管理は民間委託により、また芝生の維持や広場内の草取り、水景施設の清掃は職員が行なっているが良好を保っている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	特になし
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	駅の乗降客や観光客、住民に安らいでもらうようなような維持管理。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	職員が清掃・維持管理事業等を行い最低限の委託しかしていない。有効性や必要性、効率性については認められると思う。田沢湖の玄関口であることから芝生や修景木等の管理の頻度を考慮してB 2と判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

樹勢の弱まった修景木は撤去し手入れの金をかけない。成長により必要以上に密集している修景木は間引きする。
駅の乗降客や観光客に不快感を与えないよう生垣の剪定や芝生の草取り、水景施設の清掃をこまめに行う。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	広場の維持管理の水準が観光客の第一印象に大きく影響を与えられるため、定期的な環境整備は不可欠であるといえます。 管理水準を低下させない形でより効率的に事業を行うため、継続的に改善に取り組む必要があると考えます。

一次評価診断図

